

2022 年度

事業計画及び収支予算

自 2022 年 4 月 1 日
至 2023 年 3 月 31 日

2022 年度事業計画及び収支予算目次

I	総括	2
II	事業本部計画	3
III	支部活動計画	27
IV	収支予算	34
V	2022 年度理事会への支払い予定について	37

2022 年度事業計画及び予算について

I . 総括

2022 年度は、COVID-19 により 2020 年度、2021 年度と低迷した事業活動を、2019 年度並みに回復させる必要がある。

2021 年度は、特に、人が集まって行うイベントや行事は、十分に行うことができず、協会活動においても、社員総会、理事会、委員会等、2020 年度に引き続き Web 形式で対応することになった。

唯一 2020 年度と異なるのは、ET 展示会を、規模は縮小したもののリアル開催できたことである。

COVID-19 の影響は今後も続くことが予想されるが、2022 年度は With コロナとして、どのようにして事業活動を活性化していくかが問われることになる。

このような状況の中で、JASA として今後どうあるべきかを検討し、目標を定め、プラス思考で行動できるように、JASA ビジョン 2030 を策定した。

JASA ビジョン 2030 は 3 ヶ年ごとの中期計画をもとに、2030 年に JASA のあるべき姿を示したものである。

II. 事業本部活動計画

事業推進本部

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

『JASA ビジョン 2030』と3ヵ年計画の定着と推進

- ①JASA 会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場を提供
- ②業界マップ(カオスマップ)の整備による協業の推進と、アライアンスの推進
- ③広報活動の再検討(JASA ホームページ、Bulletin JASA、JASA パンフレット)
- ④官、国内外企業、学生に対する JASA ブランド・ロイヤリティの向上
- ⑤「経営者支援」活動の立上げ

2. 達成目標(完了条件)

①JASA 会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場を提供

⇒経営者支援を担う WG の設立

②業界マップ(カオスマップ)の整備による協業の推進と、アライアンスの推進

⇒広報委員会を支援し、全会員のカオスマップの作製、ET 事業本部と共同で、その普及に務める

③広報活動の再検討(JASA ホームページ、Bulletin JASA、JASA パンフレット)

⇒組込みシステム業界の出口戦略を広報委員会を支援して再構築する

④官、国内外企業、学生に対する JASA ブランド・ロイヤリティの向上

⇒経産省をはじめとする官庁、地方自事体、他協会との連携を推進する

⑤「経営者支援」活動の立上げ

⇒経営者向けのイベントを企画実施する

3. 1年目の目標

①-1 DX 支援(経営者向けプログラム)WG の設立

②-1 2022 年度版カオスマップの作製

③-1 JASA ホームページの見直し(ビジネスマッチング強化)

④-1 経産省との定例会実施

⑤-1 事業継承をテーマとしたイベントの実施

4. 各事業計画

【事業No.1】定例会議(委員会、WG会議)

2022 年 3 か年計画の推進

四半期ごとに WEB 会議を実施

半期ごとにリアル会議を実施

【事業No.2】支部訪問

本部と支部の連携強化、情報共有

各支部に 1 回訪問し、支部の課題、本部の情報提供を実施する

(支部と調整要)6 月北海道 7 月近畿 8 月関東 9 月東北 10 月九州 12 月北陸 2 月中部

【事業No.3】事業継承講演会

経営者支援の施策 4 の JASA 会員企業の経営者にとって必要とされる

①知識 ②人脈 ③協創 の場を提供する。

経営者支援の施策 4 のイベントとして、事業継承に関しての講演会を企画実施し、懇親会を実施する

第 1 回目は、京都を想定する

広報委員会

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

- ・JASA ホームページを情報ハブとして、協会活動を周知するとともに情報発信力を強化する
- ・Bulletin JASA の内容を見直し、読まれる機関誌を目指し配布先を拡充する。
4月号 800部、7月号 1200部、10月号 1600部、1月号 2000部を目標に
- ・会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に活用する新たな会員情報管理システム。

2. 達成目標(完了条件)

- ・会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に活用する会員情報管理システム(開発第1期)。
- ・ホームページ、メール、Facebook、Twitter の連動性を高め、情報発信力を向上させる
- ・Bulletin JASA は4月号(技術特集)、7月号(技術本部/ETWest)、10月号(座談会/ET)、1月号(景況予測)の4回発刊する。
- ・JASA ホームページの拡充に寄与する新規コンテンツを立ち上げる。

3. 1年目の目標

- ・会員企業間と非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成に活用する会員情報管理システム(開発第1期)。
- ・JASA ホームページをリニューアルし、情報発信力を高める。
- ・会員ビジネス情報メールや公的機関(経産省、総務省、IPA、NEDO など)からの有用な情報を紹介するチャネルを設ける。
- ・Facebook で試行している。「JASA Channel」とホームページの連動性を高める
- ・Bulletin JASA は読まれる機関誌を目標に読者層を広げられる講座や旬のキーワードなどのコンテンツを立ち上げる。
- ・Bulletin JASA の配布先を見直す

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

Bulletin JASA とホームページの編集会議、広報戦略のすり合わせと実行計画策定
オンラインでは1時間/1回/月程度の開催とする。リアルでは2時間/1回/月程度。

【事業No.2】会員情報管理システム(JASA ビジョン施策 5)

会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に資する。
JASA ビジョンの施策 5 に該当
JASA 会員の事業分野や新製品、ニュースなどの情報を集約し、会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に活用する新たな会員情報管理システム。

【事業No.3】協会広報(ホームページ)

JASA の情報ハブとして、JASA の活動を潜在的会員やステークホルダーに効果的にアピールする
2020年4月にリニューアルした JASA ホームページを JASA の活動状況を集約する情報ハブとして
利用する。ET/IoT 展、イノチャレ、ロボコン、プラグフェス、技術本部の活動をタイムリーに伝える
窓口とする。各活動への動線とともに、各活動からの受け口を用意し新規会員獲得を図る

【事業No.4】協会広報(Bulletin JASA)

協会活動の JASA 内外への周知
機関紙「Bulletin JASA」の発行。発行時期は4月、7月、10月、1月。
JASA の活動をステークホルダーに伝える広報的な役割だけではなく、JASA ホームページへの
良質なコンテンツ供給源として、会員企業のブランディングに資するメディアとして活用する。
経済産業省をはじめとした、会員企業が知っておくべき公的情報を発信する

政策提案委員会

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

- ①政府(経産省)施策との情報交換会の実施
- ②IPAとの情報交換会の実施
- ③支部との連携による地方経産局等との連携推進

2. 達成目標(完了条件)

- ①年3回程度の情報交換会を実施する
- ②年1回程度の情報交換を実施する
- ③地方からの声を収集する

3. 1年目の目標

- 経産省との連携会議が実施できること
- IPAとの連携会議が実施できること
- 経産省、地方との情報共有

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

- 政策提案委員会定例会
- JASAとして、官への提言等を議論する

【事業No.2】経済産業省定例会

- 経産省との情報交換(予算決定時期、中間、来年度予算時期)
- 行政の施策と連携した施策を立てるために、情報交換を3回定期的に行う

【事業No.3】IPA情報交換会

- IPAとくに社会基盤センターとの連携を密にする
- セキュリティ、アキテクチャ関連のIPAの動きに関連して情報交換を実施する

交流推進本部

国際交流委員会

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

1. 委員会の定期開催
 - 活動検討、状況確認、情報収集(外部講師によるスピーチ)
2. グローバル人財紹介セミナー(JASA内外向け)
 - リアル及びオンラインで各国(ベトナム/ミャンマー/フィリピン)のIoT/IT/DX人財を紹介するセミナー開催
 - 各支部とのセミナー共催
3. JASAグローバルフォーラム&国際交流委員会の情報発信
 - ※グローバルフォーラムは2021年度と同様、対象国(地域)を選定してセミナー等実施
 - ET展：JASAグローバルフォーラム企画・実施、JASAブースにて委員会活動情報の発信
 - 機関紙：Bulletin JASAに「国際だより」を設け委員会より情報発信
 - HP：国際フォーラムや委員会スピーチでの講演資料を掲載
4. 海外視察による海外動向の情報入手
 - COVID19の様子を鑑みながら実施(リアル or バーチャル)

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

期初めの目標、実施項目の確認

事業の検討・計画・推進ならびに委員間の情報交換を行う

2ヶ月毎に委員会を開催し、委員会としての課題を探るため、

識者に依頼して、「委員会スピーチ」の機会を設ける。

【事業No.2】グローバル人財紹介セミナー

JASA会員にグローバル人財を紹介・供給

リアル及びオンラインで各国(ベトナム/ミャンマー/フィリピン)のIoT/IT/DX人財を紹介するセミナーを1回/Q(3回)で行う。

各国とも1~数社のパートナーを紹介。

【事業No.3】「JASAグローバルフォーラム」「国際委員会の情報発信」企画・開催

JASA会員をはじめとした企業に対し、海外の動向及び、国際化推進に向けた情報発信。

ET2022を利用し、オンラインセミナー「JASAグローバルフォーラム」を企画・開催する。

JASA配信エリアを活用し、国際委員会の活動をET期間中ビデオ上映などで情報発信する。

【事業No.4】海外視察の企画・実施

グローバル化の推進

リアル or バーチャル視察により海外のビジネスビジネス状況を把握する。

バーチャル視察(※COVID19の様子を見計らい、リアル or バーチャルで実施)

訪問先の団体・大学・企業(現地企業、日本企業)か会員企業に於ける海外の情報収集と情報発信を行う。

現地での各種インフラの状況や生活環境などを現地からお届けする。

ビジネス交流委員会

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

各地支部と連携した情報発信

JASA認知度の向上

企業間のビジネスマッチングや事業創造の機会を創出

2030ビジョン達成のため、従来セミナーの支部への引継ぎ

2. 達成目標(完了条件)

「各地支部と連携した情報発信」「JASA認知度向上」

北海道支部・東北支部・北陸支部・九州支部と企画・運営で連携し、地域の需要に沿ったセミナーを開催する。

「企業間のビジネスマッチングや事業創造の機会を創出」

ネットワーキングパーティーの実施。他団体との協力強化。オンライン時は、オンライン名刺交換機能を活用する。

セミナー開催スポンサー企業を募集。会場にて、企業・製品紹介のチラシ配布を行う。

地方進出の一助。(コスト削減効果)

「地方他団体、官公庁主催セミナーへの講師派遣」

従来のセミナーだけでなく、地方他団体、官公庁主催セミナーへの講師派遣により、JASAプレゼンスを高める。

「2030 ビジョン達成のため、従来セミナーの支部への引継ぎ」(+ α をやるには、支部の協力が必要)
各支部主体で、セミナーを開催できるようにする。

3. 1年目の目標

- ・各支部にて、年1回のセミナー開催
- ・引継ぎ：全ての支部にて、支部企画セミナー企画+JASA紹介セミナーの企画 or 開催準備（会議室等）ができる
- ・講師派遣：地域問わず、講師派遣の実施（準備期間）

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

企画・打合せ
原則、毎月1回開催

【事業No.2】北海道協業セミナー

支部と連携した情報発信と、JASAプレゼンス向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA活動紹介セミナー、北海道支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。
2022年9月開催予定。

【事業No.3】東北協業セミナー

支部と連携した情報発信と、JASAプレゼンス向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA活動紹介セミナー、東北支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。
前年度に引き続き、盛岡県との共催も検討していく。

【事業No.4】北陸協業セミナー

支部と連携した情報発信と、JASAプレゼンス向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA活動紹介セミナー、北陸支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。
マッチングHUB北陸への参加、もしくは、石川県情報システム工業会との共催を検討していく。

【事業No.5】九州協業セミナー

支部と連携した情報発信と、JASAプレゼンス向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA活動紹介セミナー、九州支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。
モノづくりフェアへの参加も検討を進める。

【事業No.6】中国(広島)協業セミナー

支部と連携した情報発信と、JASAプレゼンス向上、会員獲得。
なお、本地域は支部のないエリアのため、会員獲得と共に、支部化を目指す。
交流委員会企画セミナー、JASA活動紹介セミナー、3本立てセミナーの開催。
終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、JASA会員獲得を狙う。
なお、2022年1月に感染症拡大のため中止とした会を「延期開催」として開催。

【事業No.7】JASA ビジョン 3か年施策 5-3 地域他団体との連携強化(講師派遣)

業界振興、協会の活性化
支部主導の地域団体との連携を強化する。
従来のセミナー開催のみならず、地方情報系団体、地方官公庁が主催するセミナーへ講師派遣などを行い、JASAのプレゼンスを高める。

人財交流委員会

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

会員の新卒求人活動支援

会員の管理者・幹部候補育成支援と人財交流

学生の業界認知度の向上

2. 達成目標(完了条件)

①会員の新卒求人活動支援

会員企業と学生のマッチングイベントである業界研究セミナー(Webinar)と交流祭典(会場型)を展開。

②会員の管理者・幹部候補育成支援と人財交流

オンラインによるWGを軸に各支部からの参加者を得ること。

③学生の業界認知度の向上

3. 1年目の目標

①新卒求人活動支援

支部長から開催の要望がある関東、近畿、九州で交流祭典を開催する。

(3回の開催で学生動員数50名を目標とする)

②管理者・幹部候補生 育成支援

オンラインによる育成プログラムを企画し、各支部に参加者を募る。(参加者30名以上を目標とする)

③業界研究セミナーを行い、学生層に組込み業界の認知向上を図る。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

期初めの目標、実施項目の確認

各委員会の実施項目、施策、連携に関する情報交換

【事業No.2】《管理者・幹部候補育成》

会員企業の管理者、幹部候補者育成を支援

会員企業の管理者、幹部候補者育成のため外部から講師を招聘し、グループワーク形式のオンラインセミナーを年4回、途中の成果確認会、最終成果発表会も行う。

参加者は全国より募集し、会員間の交流促進も目的とする。

【事業No.3】《新卒求人活動支援》関東

学生に業界ならびに協会をPRし、会員企業との交流を図る。

関東圏の学生を中心に、業界・協会の認知を広げる機会を設ける。

その際、会員企業と学生の交流も図る。ET/IoT展との相乗効果のある方法とする。

【事業No.4】《新卒求人活動支援》近畿

学生に業界ならびに協会をPRし、会員企業との交流を図る。

関西圏の学生を中心に、業界・協会の認知を広げる機会を設ける。

その際、会員企業と学生の交流も図る。ET/IoT展との相乗効果のある方法とする。

【事業No.5】《新卒求人活動支援》九州

学生に業界ならびに協会をPRし、会員企業との交流を図る。

九州圏の学生を中心に、業界・協会の認知を広げる機会を設ける。

その際、会員企業と学生の交流も図る。ET/IoT展との相乗効果のある方法とする。

【事業No.6】《新卒求人活動支援》業界研究セミナー

全国の就活生・就活準備層に対して、組込みシステム開発業の認知と、就活の動機付けを行う

とともに、会員企業の求人市場のアピールの場とする
オンラインセミナーを地域ごとに行う
組込みサービス業の PR コンテンツを作成する。
地域ごとに会員企業の会社紹介、求人情報をアピールする

【事業No.7】«新卒求人活動支援»求人情報掲示

電子媒体を活用して、会員の求人情報をアピールする。
会員の求人情報を収集し、JASA ホームページに掲載する。
SNS(Facebook, Twitter 等)で情報露出する。

【事業No.8】«学生の業界認知度向上»業界情報発信

学校法人に組込みシステム開発業界の情報を提供する。
機関誌『BulletinJASA』(年 4 回)を学校法人に発信する。
* 発送に伴う経費は広報委員会で計上予定。

【事業No.9】«学生の業界認知度向上»学校教育参画・支援

学校教育の実態を調査し、可能な範囲で教育に参画する。
① (初等教育) プログラミング基礎教育の実態把握
② (高等教育) 実践教育カリキュラム策定・検証に参画

人材育成本部

ETEC 事業推進委員会

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

業界団体としての、あるべき人材育成事業の追求
ETEC 試験の普及活動(認知度向上・利用拡大)
学習コンテンツ開発
ETEC 試験の品質管理

2. 達成目標(完了条件)

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

委員会運営
・委員会(試験運用運営状況の把握、マーケティング、プロモーション) 隔月年 6 回程度

【事業No.2】«試験運用»ETEC クラス 1

ETEC クラス 1 (ks-100) の運営収支
収入:受験料
支出:試験配信手数料、データ抽出・管理、証明カード発行・郵送

【事業No.3】«試験運用»ETEC クラス 2

ETEC クラス 2 (ks-200) の運営収支
収入:受験料
支出:試験配信手数料、データ抽出・管理、証明カード発行・郵送

【事業No.4】ツール類作成

- ETEC 周辺のツール作成
- ・周知用資料制作・印刷
- ・証明書/証明カード発行・発送に伴うツール(専用封筒、クリアファイル等)

【事業No.5】試験版改定

- 4年ごと試験版を改定する
- 過去の受験結果を元に、試験品質を分析し、
- ・試験問題の再校正
- ・新問題の組込み
- ・受験結果の評価の標準化

【事業No.6】認知拡大

- ETEC 試験体験を提供し、評価やレベルを体感させる。
- 紹介キャンペーん
会員より組込開発企業(非会員)を紹介いただき、一定期間会員料金を適用
- 学校(教員)向けに DM

【事業No.7】需要開拓

- 法人受験市場の需要拡大
- 既存利用企業にヒアリングを行い、ETEC を活用した人材評価を周知
- ボリュームディスカウント(まとめ購入割引)の制度設定見直し
- ETSS との関連付け

【事業No.8】学習書籍制作

- ETEC クラス 1 受験者層向け独習コンテンツ開発(下巻)
- 構成検討
- コンテンツ開発・校正
- 販路検討

教育研修コンテンツ事業推進委員会

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

- 人材育成/人材開発事業強化
- 教育コンテンツの整備
- 有料セミナーの拡充
- 会員企業における人材育成課題の調査研究

2. 達成目標(完了条件)

- 2021 年度に会員企業にヒアリングした研修需要の上位を中心に、セミナー実施する。
有料セミナー:8 件(2 件/Q)
- 2023 年度以降の講座開発に向けた人材育成課題のレポートを作成する。2023 年度以降の講座開発に向けた人材育成課題のレポートを作成する。

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

- 事業推進のための、相談・報告・運営会議
- 各事業の進捗はデータ共有し、会議の場で運営の相談をする。

隔月開催を予定(必要に応じて随時開催)。

【事業No.2】有料セミナー運営システム

- 受講料の課金システムを備えた研修・Webinar プラットフォーム“EventHub”の継続導入
- 受講者情報収集
- 受講料代行収納
- 研修配信随時再配信
- 受講データ集積

【事業No.3】人材育成

組込みシステム開発従事者に帶する、スキルアップ研修

- プロダクトマネジメント
- アジャイル
- 要件定義
- 設計手法
- ハードウェア知識
- アルゴリズム 他 (無料講座含む)

【事業No.4】人材開発

経営層・管理者層から現場スタッフに対する、会社人としての知識・行動に関する研修

- コンプライアンス・法令遵守
 - コーチング
 - コミュニケーション
 - DX
- (無料講座含む)

【事業No.5】調査

会員企業への調査を実施し、2023 年度以降の講座開発に向けた人材育成課題のレポートを作成

- 調査項目、レポート項目の選定
- 会員アンケート実施
- 会員個別ヒアリング実施
- 他

ET 技術者教育委員会

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

2. 達成目標(完了条件)

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

【事業No.2】ET ロボコン

複雑化する組込み開発の人材育成を目的としたコンテストの企画および運営全般全支部を
1 回訪問し、情報交換を実施する
全国地区大会及びチャンピオンシップ大会における競技会と付随する技術教育・モデリングワーク
ショップなどの実施・運営

JASA イノベーションチャレンジ実行委員会

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

期初めの目標、実施項目の確認

各委員会の実施項目、施策、連携に関する情報交換

年2回実施予定 近畿で実施予定

【事業No.2】デジタル人材 イノベーションチャレンジ

DX推進に貢献できるビジネス指向人材の育成を目的としたコンテストの企画および運営全般
(旧 DX イノベーションチャレンジ)

書類審査、一次審査、決勝大会等における審査会の開催と付随するセミナー・相談会・

チームビルディングワークショップなどの実施・運営(決勝大会を除き、すべてデジタル開催とする)

技術本部

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

会議(委員会、WG会議)、成果発表会、技術本部セミナー(ET West2022)、技術本部セミナー(ET2022)

技術本部・各委員会の成果を発表する

2. 達成目標(完了条件)

会議の実施、成果発表会の開催、ET Westでの技術本部セミナーの実施、ET 2022での技術本部セミナーの実施、ET2022での技術本部・各委員会の成果の展示を実施する

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

技術本部の活動を総括するため、本部会議を実施する。

四半期毎に1回

【事業No.2】技術本部成果発表会

各委員会の前年度の活動成果を、会員や一般向けに発表する。

今年度はWEBにて実施

【事業No.3】技術本部セミナー(ET/IoT West2022)

ET West2022開催の機会を利用して、技術本部各委員会の中間成果を中心にセミナーを実施する

【事業No.4】技術本部セミナー(ET/IoT 2022)

ET2022 JASA 技術本部セミナーを開催。

技術本部・各委員会の成果を発表する。

【事業No.5】技術本部・各委員会の成果を発表する

ET2022 JASA ブースにおいて、PR 活動を行う。
主に JASA 会員に対する AI 技術振興を行う。
スタートアップの先端技術の情報を JASA 会員で共有できるように支援する

安全性向上委員会

1. 活動概要(2022 年度の事業方針：事業予算案)

- (1) AI や IoT(含むセキュリティ)に代表される複雑システムの機能安全の課題や国際規格に関する調査・研究を行う。
成果は積極的に情報発信していく。
- (2) STAMP モデルをコア技術とした安全設計や事故分析の事例を蓄積し、技術者の啓発活動に役立てる。
- (3) 安全設計にかかわる仕様書において、その論理性や非機能要件の明示化にかかわる問題点を整理して改善のための議論をする。
- (4) 上記で得た知見を整理し、セミナーなどでの啓発活動を行う。加えて、有識者に指導をいただき、さらに知見を高める。そのためにも、大学、研究機構、IPAなど外部組織・団体との技術交流、連携を積極的に推進する。
- (5) 「つながる社会での機能安全」、「安全仕様化」、「啓発・連携」の 3 つを委員会内 WG として設置する。

2. 達成目標(完了条件)

- (1) 定例会にて各WGの活動を行う。
- (2) JASA 内での他の委員会(特にセキュリティ委員会)との合同での合宿を行い、Safety & Security の考え方をまとめる。
- (3) STAMP-WS への投稿。
- (4) 安全設計セミナーの開催。
- (5) 上記を通じ、委員各位の知見を深めるとともに JASA 会員企業へ複雑システムの安全設計に関する考え方の普及啓発を行う。

3. 1 年目の目標

- (1) 新設の「つながる社会での機能安全」の概要を明らかにする。
- (2) STAMP-WS の運営に協力(継続)
- (3) 都産技研との連携、技術セミナーの共同開催(継続)
- (4) 安全設計入門改訂版の内容を中心に JASA セミナー開催
- (5) 有識者、関連団体との連携協力の推進
- (6) 上記を通じ、委員各位の知見を深めるとともに JASA 会員企業へ「安全性」の普及啓発を推進する

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

- 年度計画の策定、推進、状況確認。対外組織との連携を企画する。
- ・定例会(月一回)を開催し、各WGの活動報告から情報共有、意見交換を行い、「安全性」に関する見識や技術力の向上を図る。
 - ・国内外の機関の技術動向ウォッチ、相互紹介を進めビジネス機会の提供を図る。
 - ・STAMP/STPA/CAST に関する情報収集を行う。
 - ・セキュリティ委員会との連携によるセキュリティと安全性の融合に関わる情報収集を行う。
 - ・会合は原則、委員会と一体で進めるが、議案は各WGで独立に行う。

【事業No.2】「つながる社会での機能安全」WG

- つながる社会での機能安全の課題検討、特に AI・IoT(含むセキュリティ)がかかわる複雑システムの安全にかかわる課題を検討する。
- ・AI/IoT エッジの安全について理解を深める。
 - ・Safety & Security (S&S) の考え方をまとめ、外部に発信する。

- ・STAMP/STPA/CAST にかかる事例を集め、つながる社会での機能安全に役立つ考え方としてまとめる
- ・合宿の企画、セキュリティ委員会などとの合同合宿の交渉(10月前後)

【事業No.3】安全仕様化WG

- 安全性に関わる設計の課題検討、特に上流工程の課題を検討する。
- ・Safety&Security(S&S)の考え方をまとめ、外部に発信する。
 - ・安全が関わる要求を仕様化するプロセスを研究し、プロセスモデル又は手法を提案する。
啓発・学術活動として、セミナー講師の派遣、学会や技術誌への投稿を行う。
 - ・安全誘導型設計プロセスモデルを重点課題とし、自主的に活動し、相互啓発を図る。
 - ・手法として、意図・要求記述手法や、形式検証手法、安全解析手法に取組む。
 - ・AI/IoTエッジの安全について理解を深める。
 - ・STAMP/STPA/CAST にかかる事例を集め、つながる社会での機能安全に役立つ考え方としてまとめる

【事業No.4】啓発・連携 WG

委員会活動の成果を発信し、社会啓発に資する。また、委員会内の交流を促進する。

- ・安全設計セミナー、STAMPセミナーの開催
- ・STAMP-WS 開催支援
- ・合宿の企画(9月または10月)
- ・外部との交流の中からオープンイノベーションの機会を増やしていく。
- ・会合は原則、委員会と一体で進めるが、議案は独立に扱う。

組込みシステムセキュリティ委員会

1. 活動概要(2022年度の事業方針：事業予算案)

- ・IPA「IoTセキュリティ教材」のセミナー活動
- ・セキュリティ版ETSSの展開、普及活動
- ・JASA版「組込みセキュリティ教材」のコンテンツ開発、セミナー活動
- ・IoTセキュリティの国際安全基準適合の認証取得、対応証明支援事業の立ち上げ
- ・外部組織での発表、情報交換、セミナー活動
- ・デジタル田園都市国家構想における次世代セキュリティ技術の調査
- ・WG活動、WG連携活動

2. 達成目標(完了条件)

(1) IPA「IoTセキュリティ教材」のセミナー活動

2022年1月にIPAから移管された「IoTセキュリティ教材」にて、有償のセミナーを開催し、広く普及活動を実施する。

(2) セキュリティ版ETSSの展開、普及活動

2021年度に開発したセキュリティ版ETSSの普及活動、セキュリティ版ETSSをベースにしたキャリア基準、教育基準を開発し、IPAと普及活動を実施する。

(3) JASA版「組込みセキュリティ教材」のコンテンツ開発、セミナー活動

セキュリティ版ETSSにて定義されたスキルをもとに、IPA「IoTセキュリティ教材」の改版を行い、JASA版「組込み技術者向けセキュリティ教材」のコンテンツ開発を行い、有償セミナー、ETEC試験制度の事業展開をする。

- (4) IoT セキュリティの国際安全基準適合の認証取得、対応証明支援事業の立ち上げ
IoT 機器、組込み開発分野で利用される国際規格の調査を実施し、組込み開発会社にて認定を取る場合の支援事業を展開する事業展開をする。
- (5) 外部組織での発表、情報交換、セミナー活動
セキュリティ啓発活動として、都立産業技術センターとの共同セミナーを開催し、中小企業向けのセキュリティ啓発活動を実施する。JEITA、SIoT 協議会など他団体との連携を図り、ガイドライン作成、セキュリティ普及活動を実施する。
- (6) デジタル田園都市国家構想における次世代セキュリティ技術の調査
量子コンピュータの発展、巧妙化するサイバーセキュリティ攻撃に対して、次世代のセキュリティ対策を実施し、普及活動を実施する。
- (7) WG 活動、WG 連携活動
組込みシステムセキュリティ委員会としては、WG 活動を月 1 回開催する。JASA 内の WG との連携も行い、セキュリティ面でのフォローを実施する。

3. 1 年目の目標

- ・IPA 「IoT セキュリティ教材」を使った有償セミナーを年 2 回開催する。継続して開催を実施する。コンテンツの見直しも実施する。
- ・JASA のセキュリティ教育事業の準備として、セキュリティ版 ETSS の開発、JASA 版「組込み技術者向けセキュリティ教材」のコンテンツ開発を実施する。人材育成事業部との連携を図り、ETEC 制度の立ち上げに関する検討を実施する。
- ・国際規格の認証のニーズを調査し、認定支援ビジネスの立ち上げに関する検討を実施する。
- ・デジタル田園都市国家構想の内容を分析し、デジタル田園都市国家構想にて利用できるセキュリティ技術の調査、他団体と協力し、ガイドライン作成に貢献する。
- ・一般消費者、組込み開発者向けに他団体と協力し、セミナーを開催しながらセキュリティ啓発活動を行い、セキュリティに対する意識向上を図る。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

- ・毎月 第二木曜日、通年で 12 回(オンライン)の開催を実施する。

【事業No.2】セキュリティ教育ビジネスの展開

- JASA としてのセキュリティ教育ビジネスの開発と有償セミナー開催による収益化
- IPA 「IoT セキュリティ教材」を活用した有償セミナーの開催による収益化
- セキュリティ版 ETSS をベースとした、JASA 版「組込み技術者向けのセキュリティ教材」の開発と ETEC 試験制度の立ち上げによる収益化

【事業No.3】セキュリティ国際規格の認定支援による収益化

- 組込み開発におけるセキュリティ国際規格の認定が必要な企業向けのコンサルティングビジネスの立ち上げによる収益化

【事業No.4】デジタル田園都市国家構想における次世代セキュリティ技術の調査と普及

- デジタル田園都市国家構想における次世代セキュリティ技術の展開による収益化
- 量子コンピュータや巧妙化するサイバーセキュリティ攻撃に対する次世代に利用できるセキュリティ技術の調査、開発、普及による収益化

【事業No.5】外部組織での発表、情報交換、セミナー活動

- 都産技研、JEITA、SIoT 協議会など外部団体連携による啓発活動
- 都立産業技術研究センターと中小企業向けのセキュリティ啓発活動を行い、セキュリティ意識の

向上に向けた活動をする。

JEITAとの連携を図り、デジタル田園都市国家構想のスマートシティ、スマートシティにおけるセキュリティガイドラインに貢献し、官公庁に貢献する。

SIoT協議会と有償セミナーの開催を実施する。

IoT 技術高度化委員会

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

クラウドやIT産業の視点で語られがちなIoTやM2Mを、エッジ側(組込み産業、製造業)の観点で見直し、その構成/サービス/拡張性/検証性/保守性などの検討を行い、情報発信する。

そのため、有識者を招いた勉強会や企業のサービス事例を題材にした「白熱教室」を定期開催し、見識を深める。各WGにて、具体的なテーマに応じたWorkShopを開催し、共創をベースにしたIoTサービス実現のプロトタイプシステムの構築や、要素技術の研究を行う。

- ① ドローンWG ⇒ ドローンを利用したサービスの検討、ビジネスモデルの提案など
- ② スマートライフWG ⇒ エモーションをトリガにした、QOLの向上施策の検討など

2020年度、2021年度のコロナ禍でのWEBベースでの活動経験を踏まえて、リモートでの活動が可能となった。これにより、大阪のみならず名古屋、福岡などの展示会を活用し、活動紹介を通じて、メンバーや連携団体を広く全国に求める活動を展開する。

2. 達成目標(完了条件)

本委員会は、ビジネスマッチング・共創の場の提供を基本とし、活動内容を広く周知し、会員企業はもとより業界団体の相互連携から、「共創によるビジネスの実現を図ること」を達成目標とする。

3. 1年目の目標

情報発信活動の継続

- (1)JASA HPでの活動内容の掲示
- (2)ET/IoT展示会やセミナーでのデモ展示、講演、パネルディスカッションなど
- (3)ITメディア「EETimes/Japan」の連載寄稿
- (4)その他

共創プロジェクトの実現:1件

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

活動計画、進捗状況の確認

- ・年6回程度の開催
- ・有識者を招いた講演&勉強会
- ・各種IOT団体との連携

【事業No.2】ET/IoT-WEST2022

委員会及びWGの活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。

- ・ブース展示:IoT技術高度化委員会の紹介、パネル作成、資料配布など
- ・IoTセミナー、パネルディスカッションの企画・実施

【事業No.3】ET/IoT 2022

委員会及びWGの活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。

- ・ブース展示:IoT技術高度化委員会の紹介、パネル作成、資料配布など
- ・IoTセミナー、パネルディスカッションの企画・実施

【事業No.4】IoT ビジネス検討ワークショップ

- JASA 会員企業の若手に IoT ビジネスにふれて頂き、今後のビジネス展開の糧にして頂く。
- ・昨年度実施した、「AI Work Shop」の続編の企画
 - ・スマートライフ WG のデモシステムをベースにした Workshop など

【事業No.5】福岡展示会

- 委員会及び WG の活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。
- ・ブース展示: IoT 技術高度化委員会の紹介、パネル作成、資料配布など
 - ・IoT セミナー、パネルディスカッションの企画・実施

ドローン WG

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

- (1) デジタル田園都市国家構想におけるドローン活用に関する検討
- (2) スパーシティ、スマートシティを題材にした、小口輸送でのドローン活用の検討、施行
- (3) 空のロードマップを参考に安心・安全なドローン活用に関する検討

2. 達成目標(完了条件)

1. デジタル田園都市国家構想におけるドローン活用に関する検討

デジタル田園都市国家構想にてドローンを活用するユースケースが想定されるので、JASA が作った機体の利用ユースケースを検討し、実際の実証実験を実施する。

2. スパーシティ、スマートシティを題材にした、小口輸送でのドローン活用の検討、施行

日本の地方自治体で始まっているスパーシティ、スマートシティの実証実験に参画し、JASA の機体を活用した実証実験を行い、課題に対しては、23 年度以降での機体制作に活かすような取組みをする。

3. 空のロードマップを参考に安心・安全なドローン活用に関する検討

以下の取組みを行い、JASA 会員企業に向けたドローン利活用に活かしてもらう。

・機体の製造マニュアル

JASA 開発の機体をもとにした機体の製造マニュアルの作成を実施する。

・必要な技術マップの整理

安全、セキュリティ、リモート ID、レベル 4 などドローン必要な様々な技術マップを整理し、ドローン製造時に利用してもらう

この辺りは、金沢工業大学と連携し、機体設計のノウハウを習得しながら進める。

・他の機体の研究

NEDO など国産機体が出ているので、他の機体の研究を行い、JASA 機体製造のノウハウに活かす。

3. 1 年目の目標

デジタル田園都市国家構想の調査を実施し、実際にスパーシティ、スマートシティに取り組んでいる地方自治体とのコラボができるように推進し、JASA 機体での利活用ができるフィールドでの実証実験をする。JASA 会員企業向けに、ドローン WG での成果が見えるようにするために、機体の製造マニュアル、必要な技術マップ、ET 展での展示など、成果が見えるようにしていく。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

委員会活動のため

毎月 第二金曜日、通年 12 回の実施をする。

【事業No.2】金沢工業大学との連携研究による機体製造

JASA 独自機体を製造し、製造方法を会員企業に寄与する。

金沢工業大学との連携研究を行い、機体製造のノウハウを習得しながら、JASA 会員企業向けの

機体製造マニュアルなど、会員企業での利活用がし易いように推進する。

【事業No.2】商用ドローンのユースケースの検討

JASA 独自機体を利用したユースケースを検討し、実証実験を行い、国の政策に寄与する。

デジタル田園都市国家構想のスマートシティ、スマートシティを題材にドローンのユースケースを検討し、地方自治体との連携を図り、スマートシティ構想の政策に寄与する。商用ドローンの利活用においては、安全、セキュリティなど留意すべき事柄があるため、留意すべき事柄を整理しながら、他国産ドローンの研究を行い、JASA 製造機体に活かすようにノウハウを習得する。

スマートライフ WG

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

- ・人の感情(エモーション)や状態(バイタル)をセンシングし、IoT として応用する技術の調査・研究
RC88(COMMA ハウス)、IoT-EX、ifLink オープンコンソーシアム、トリリオン研、都産技研など様々な会社、団体と交流し、オープンイノベーションを推進していく。
- ・スマートライフ分野における QoL 向上のために、生活上の課題を解決するソリューションを組込みの視点から提案し、検討したソリューションについて、プロトタイプを作成し、サービスの有用性について実証実験を行う
- ・IoT を普及させる為、プロトタイプで実証した、エッジ側での仕様、要件をまとめ資料化し、JASA の成果として情報発信する。
- ・スマートライフ WG の協力メンバーを増やす

2. 達成目標(完了条件)

プロトタイプ作成で得られた技術的な知見を成果としてまとめ情報展開を行う。(設計書、コード等)

展示会にて、セミナを実施し、スマートライフ WG の活動成果を発表する。

様々な会社、団体(RC88(COMMA ハウス)、IoT-EX、ifLink オープンコミュニティ、トリリオン研、都産技研)との協力、連携、交流をし、JASA のプレゼンスの向上を図る。

3. 1 年目の目標

センサ(エモーションセンシング等)の継続調査、研究。

各団体(インターネット協会、RC88、ifLink オープンコンソーシアム等)との協調

ET 展でのデモ展示、展示会でのセミナーを通じ、スマートライフ WG 協力団体、会社、メンバーの増員
各社持ち寄りの技術の先行利用、使用感フィードバック

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

人の感情(エモーション)や状態(バイタル)をセンシングし、IoT として応用する技術の調査・研究、スマートライフ分野における QoL 向上のために、生活上の課題を解決するソリューションの検討

メンバーとのディスカッション、情報共有、プロトタイプの作成等スマートライフに利用できる新規センサ(特にエモーションキャッチセンサ)の調査・研究実証実験で得られた技術的な知見のまとめ。(勉強会、セミナ実施)

【事業No.2】プロトタイプ作成

スマートライフ WG で検討したアイデアの展示会に向けたプロトタイプ作成

スマートライフ WG で検討したアイデア実現のためのセンサ調査、プロトタイプ作成

【事業No.3】ET2022

スマートライフ WG の活動を外部に向け発信し、様々な会社、団体と交流し、仲間作り、人脈を形成する。

スマートライフ WG の活動内容を、パネル、動画展示を行い、セミナー発表を行う。

応用技術調査委員会

OSS 活用 WG

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

OSSC 共同セミナー、WG 会議、RISC-V エコシステム調査、組込み OSS 鳥瞰図作成、OSS 普及セミナー、OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査、広報資料作成、外部発表

2. 達成目標(完了条件)

OSSC 共同セミナーの開催。

RISC-V エコシステム調査報告書の作成。

組込み OSS 鳥瞰図の作成完了。(着手から 3 年後を目指す)

OSS 普及セミナーの開催、ハンズオン実施。

OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査報告書の作成。

広報の資料作成。

外部発表の実施。

WG 会議の開催。

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

WG 活動のため

・隔月、年 6 回(都内、関西など)の開催

【事業No.2】組込み OSS 鳥瞰図作成

組込み OSS の利用を促進するため、組み込み用既存 OSS を一望できるようにする。

組込み用 OSS は、ロボット、自動運転、画像認識、AI、画像処理、数値計算、開発ツールなど多様化している。それら OSS が一望できるような図を作成する。3 年後の完成を目指す

【事業No.3】外部発表

WG の活動果を公表し、活動をアピールする

1. 技術本部成果発表会(5 月) JASA 会員向け報告

2. ET2022 技術本部セミナー(11 月) 一般向け啓発

【事業No.4】OSSC 共同セミナー

OSS の活用を促すセミナーを実施する。同時に WG の活動を外部にアピールする。

OSS コンソーシアム AIR 部会と共同で、開催。外部より講師を招き、最新の OSS 情報を、一般に知らしめるセミナーを主催し、WG の活動をアピールする。

時期は通年で、年に 3 回程度実施。

【事業No.5】広報資料作成

WG の活動成果を公表し、WG の活動をアピールする。

フライヤ(チラシ)、ステッカ、印刷物などを作成

【事業No.6】RISC-V エコシステム調査

オープン・ソースな CPU RISC-V を取り巻く環境を調査する

RISC-V CPU を搭載したボードをもとに、CPU アーキテクチャ、開発環境を調査する。RISC-V のために活動している有識者、団体などと交流をはかり、RISC-V エコシステムの中での組込み団体の立ち位置を探る。開発環境 OSS、OSS な組込み用ブートローダなどの調査を行う

【事業No.7】OSS 普及セミナー

JASA 会員などへの OSS とオープン・ソース・ハードウェアの振興を諮る
座学とハンズオンを混合した形式で、組込み技術が身につくセミナーを実施。
本年度は、近畿地方で数回程度の連続実施を計画。

【事業No.8】OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査

OSS ドローンを飛行させるための、諸事情を調査する
ドローンは飛行させるために、飛行場所、操縦のための資格などが必要である。
また、OSS を使用したドローンを今後運用するために、必要となりそうな事柄を調査する

アジャイル研究 WG

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

WG 会員の課題解決による技術及びマネージメント情報の共有と研究成果の情報発信
委員の知見を深めるためのセミナーを開催する。

2. 達成目標(完了条件)

ET 展や技術本部成果発表会等での研究発表
委員の知見を深め、各社の業務に研究成果を反映頂く

3. 1 年目の目標

参加会員の課題や諸問題をアジャイル開発等の手法を活用し、解決し、その成果事例を ET 展で発表する。

外部講師による講演会や情報交換の場を会員に提供する。
参加会員の増強
主査も変わり、心機一転、引き続き昨年の目標を継続する

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

開発の課題をアジャイルなどの手法を導入して改善する研究会
2012 年度より始まったアジャイル研究会を続けて行う。
開発の課題解決にアジャイルなどの手法を適用して試行し、評価する。

【事業No.2】アジャイル勉強会(セミナー開催)

外部講師をお招きし、より広い知見を得る
上記 WG に合わせ、年に 2 回は外部講師をお招きし、セミナーを開催する。

AI 研究 WG

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

研究定例会議(年 6 回程度)
勉強会(全 5 回(講義:4 回、発表:1 回))

2. 達成目標(完了条件)

(1) エッジ AI が一般化するまで機械学習の最新技術の取り込みとコンペ参加で技術力を向上させ、エッジ機器への AI 実装を試す

(2) Deep Learning を使用したデモ開発と参加企業上長向けの内部デモ発表

3. 1年目の目標

- 1) 興味のあるテーマを Why to make で繋がったグループで取り組み、結果を展示会などで発表
- 2) AI に興味のある技術者を対象に Deep Learning とは何かを理解し、製品に組込める技術者の育成。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

Deep Learning を既に理解し開発できる技術者とエッジ AI 活用研究
毎月、1回 1 時間のオンライン WG を行なう。

【事業No.2】技術者育成

AI に興味のある技術者を対象に Deep Learning とは何かを理解し、製品に組込める技術者の育成
年 5 回(ほぼ隔月)、1回 3 時間のオンライン勉強会を行なう。

プラットフォーム構築委員会

Open EL 活用 WG

OpenEL の仕様の強化

OpenEL の普及・啓発を強化する

OpenEL の国際標準化の可能性を調査する

OpenEL を国際標準とするためには、優れた仕様だけでは不十分であり、多くのユーザーに使っていただく必要がある。そのためには、多くのユーザーが使用しているプラットフォームに対応するのが得策である。よって、ET ロボコンのプラットフォームとして採用されている LEGO 社の EV3 などへの対応を行う。

また、ET ロボコンに限らず、高度化する組込みシステム開発において品質と効率を上げるモデルベース開発が求められており、上流から下流まで一気通貫して開発できることが重要である。そして、これを実現するためにも各レイヤーのツールベンダーを巻き込む必要がある。そして、各ツールで OpenEL をサポートすることにより、インターフェースが統一されるため、モデルからソースコードを自動生成し、さらに自動テストまで行なうことが可能になる。ゆえに、OpenEL が組込みシステム開発において上流から下流まで一気通貫したソリューションを提供する核となる。

さらに、組込みシステムセキュリティ委員会と連携し、セキュリティ対応を目的として仕様を強化する。

2. 達成目標(完了条件)

OpenEL の仕様の強化

OpenEL の国内外における普及

OpenEL の国際標準への提案

3. 1年目の目標

OpenEL の仕様の強化

OpenEL の国内外における普及

OpenEL の国際標準化の可能性の調査

OpenEL の国内外における普及のため、OpenEL 対応プラットフォームとデバイスを強化する。

プラットフォームでは、WoT や Azure IoT での OpenEL の利用を推進する。

また、Azure Digital Twins によるデジタルツインの実現可能性を調査する。

デバイスでは、すぐに製品に組み込めるボードに対応することにより、OpenEL の製品での採用実績を増やす。

各レイヤーのツールベンダーを巻き込み、OpenEL エコシステムを構築する。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

OpenEL の仕様策定、普及・啓発およびその他の活動計画の立案、国際標準化の可能性の検討

組込みソフトウェア開発技術の調査、アクチュエーターやセンサーに関する技術の調査、講師を招いての勉強会の開催、OpenEL 仕様書の執筆、実装などの具体的な作業を行う

【事業No.2】ET & IoT West

OpenEL の普及・啓発活動

ET & IoT West 2022 にて、OpenEL を用いた組込みソフトウェア開発手法の講演およびデモ展示を行う。

【事業No.3】ET & IoT West

OpenEL の普及・啓発活動

ET & IoT 2022 にて、OpenEL を用いた組込みソフトウェア開発手法の講演およびデモ展示を行う。

組込み IoT モデリング WG

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

本 WG では、IoT 時代に必要とされる手法やモデルを明らかにし、その活用を促すとともに共有資産の創出を目指す。

進め方としては、大まかな方向性や見解を議論する WG と、それを使って実際にモデルを作成し有効性を検証し、WG にフィードバックするサブ WG の 2 つの活動を並行して行っていく。

2. 達成目標(完了条件)

IoT 時代に有効なモデルの活用方法に関する知見を書籍の形でまとめることが出来た時点で、完了とする。

完了時点で、新たな課題や次に活動すべきテーマが見えていれば、改めて計画を立てて継続を検討する。

3. 1 年目の目標

SoS(System of Systems)での課題となるセキュリティに対し、事前にモデリングを試みることで、問題となりそうな箇所を事前に検討出来る手法を考える

その手法に関する紹介や適用時のガイドラインをまとめ、外部に公開する。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

サブ WG の開催に関する運営業務の委託。具体的には、次の作業(連絡用 ML の管理、会合開催の連絡、当日の出席・進行補佐、議事録の作成、成果物の管理等)。

ハードウェア委員会

デバイスWG

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

(1) FPGA をメインに JASA メンバーを含めて RISC-V の普及する

(2) RISC-V 以外の新技術の習得

2. 達成目標(完了条件)

- 導入手順書の作成
- 周辺回路の製作と RISC-V による動作検証実施
- 新技術を 2 件／年の発掘

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

- WG 活動内容の報告、および技術セミナーなど
- 月 1 回の WG 開催
- 技術セミナー 2 回／年

【事業No.2】FPGA 周辺回路の製作

- RISC-V の普及活動のため
- RISC-V を搭載可能な FPGA ボードを利用して周辺回路と組合せて、実装方法、RISC-V の利用方法などをメンバーへ展開する

RISC-V WG

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

【背景】

- ・RISC-V はハード、ソフトともにオープンソースかつロイヤリティフリーであり、加えて組み込み機器では今後ますます重要性を増す認証やデータの安全性を担保するセキュリティ機能についても技術開発が進んでいることから、JASA として押さえておくべき重要技術の 1 つである。
- ・一方、実装にはノウハウが必要で、使いこなせるようになるにはノウハウの積み重ねが必要となる。
- ・上記を会員各社が個別に行うと、ノウハウ取得まで 3M のリソース投資が各社個別に必要となり、無駄かつ複数通りの実装が生じるために会員相互の連携も非効率なものになる懸念がある。
- ・このため、会員が相互に利用可能な共通プラットフォームの早期開発が望まれる。
- ・上記 JASA 版 RISC-V プラットフォームにより WG で活用を促進できるベースが整いつつある。

【方針】

- (1) オープンな仕様で、会員が自由に活用できる RISC-V プラットフォームを会員の協力で開発する。
- (2) コミュニティ化など、開発した RISC-V プラットフォームの普及活動を行い、応用範囲を広げる。
- (3) 上記活動を通して RISC-V コミュニティに貢献するとともに JASA のプレゼンス向上を図る。

2. 達成目標(完了条件)

- (1) 毎月定例会を開催し、会員または招聘者による講演、開発の進捗報告等で会員の RISC-V 理解を深める
 - ◇会員の RISC-V に関する発表の場を提供すると共に、会員相互のスキルアップを支援する
 - ◇会員参加に向けた RISC-V 著名人や有識者による Web 講演会を実施する
 - ◇成果の発表機会を作る (ET 展への出展や他 WG のプロジェクトへの部品としての提供など)
- (2) より実用的な RISC-V プラットフォームを実現する
 - ◇LINUX 動作可能な 64 ビット版プラットフォームを構築する
 - ◇産学連携で取り組む
- (3) RISC-V 協会、その他の外部 RISC-V 関連団体との連携活動を行う(1 つ以上の連携活動の実施)

3. 1年目の目標

◆実用的な RISC-V 組込み IoT プラットフォーム化実現

- ・LINUX 動作可能な 64 ビット RISC-V プラットフォームの開発
- ・外部団体・出版社との協創によるプラットフォーム化活動の推進
- ・TEE/SE 実装検討による IoT 組み込み機器向けデバイス認証・セキュリティ環境の実現
- ・ET 展への出展

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

- ・委員間での会合
- ・毎月定例会を開催する
- ・会員もしくは外部の RISC-V 有識者による勉強会を実施する

【事業No.2】RISC-V プラットフォーム整備

- ・64 ビット版 JASA 版 RISC-V プラットフォームの開発
- ・LINUX 動作可能な JASA 版 RISC-V(64 ビット)プラットフォームの開発
 - (1) FPGA ボードの購入(プラットフォーム用+開発用×3 式)
 - (2) JASA 版 64 ビット RISC-V コアの開発 (大学への研究開発コンサル含む)
 - (3) LINUX カーネル移植 (JASA 公募)
 - (4) ブートローダ開発 (JASA 公募)

【事業No.3】外部団体との協創活動

- ・RISC-V 協会、その他の外部 RISC-V 関連団体との連携活動を行う
- ・WG の活動を RISC-V コミュニティで認知されたものにする
- ・JASA 会員が個別に外部団体に加入しなくても参加できるようにする

【事業No.4】広報活動

- ・JASA の RISC-V に対する活動を広報する
- ・会員の RISC-V 理解を深める
 - 【(メンバー・会員対象)Web セミナー開催】
 - ・定例会(メンバー会議)のタイミングで年 6 回程度開催する
 - ・会員または招聘者による講演、開発の進捗報告等で会員の RISC-V 理解を深める
 - 【展示会出展】
 - ・ET2022 への出展

ET 事業本部

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

JASA の基盤事業として、成長性のある収益事業として発展させる

コロナ禍により、JASA の収益の柱である展示会事業がさまざまな課題に直面している。

以前のような、JASA の強固な収益事業とすべく、新たな展示会としての姿を目指す。

①応用分野の取込み

応用分野を持つ他の展示会や団体との共同開催を図ることで、展示会の規模・内容を強化

②若手来場者の取込み

新たな経済・社会活動を担う若手エンジニアを呼び込むべく、企画・運営体制を刷新

③業界団体ならではのコンテンツ提供

コミュニティの HUB、産業界や社会課題への提案など、業界団体主催ならではの新たな価値を提供

④魅力あるオンライン展示会の実現

with コロナを見据えた、実効力あるオンライン展示の実現とリアル展示との融合化

⑤営業力と出展社支援の強化

大小間向け営業施策の強化と、小小間向けの出展支援で、出展社数の大幅増を実現

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

①応用分野の取込み：共同開催(2件)

②若手来場者の取込み：若手主体企画(2件)、運営側平均年齢(-5歳)、来場者平均年齢(-3歳)

③業界団体ならではのコンテンツ提供：

コミュニティ連携企画(2件)、JASA 発信コンテンツ強化(技術委員会との連携)

④魅力あるオンライン展示会の実現：オンライン展示の顧客満足度(4以上)

⑤営業力強化と出展社支援の導入：復活した大小間数(5件)、新規の小小間数(10件)

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

事業本部の運営全般

本部会、推進委員会、各WG(展示会WG、カンファレンスWG)の開催

【事業No.2】ET&IoT West 2022@大阪

ET&IoT West 2022 展示会実施に伴う運営委託費等

【事業No.3】ET&IoT 2022@横浜

ET&IoT 2022 展示会実施に伴う運営委託費、事業収入等

プラグフェスト実行委員会

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

Society 5.0は、IoTで全ての人とモノが繋がり、情報共有が必要となるが、現在家電業界に於いて世界的に普及しているHDMIも根本的な思想は同様で、同一のインターフェースで全ての機器が等しく繋がり、双方向で情報共有を行っている唯一の規格である。

日本プラグフェストは、このHDMIの相互接続検証を日本で実施することを基本とし、国内外の家電メーカーに対し接続検証の場を設け、技術的な課題の共有や品質の向上に努めている。

日本プラグフェストで培われた経験を活かし、Society 5.0の実現に向けIoTで全ての人とモノが繋がるには何をすべきかを、JASA会員企業の視点とは別の視点から考察することで課題を克服し易くし、新しい価値の創造を行えるようフィードバックを実施する。

また、日本プラグフェストで使用しているプラットフォームを流用し、Society 5.0の実現に向けた実証実験や相互検証の場を提供することも検討する。

日本プラグフェスト参加の企業に対しては、JASA会員企業の認知度の向上及びET展への周知や情報提供を行うことで、そのプレゼンスを上げていくことも目的とする。

2. 達成目標(完了条件)

年に2回、東京と近畿圏で定期的に開催することで、参加の可能性のある家電メーカーに対して信頼や安心感を獲得するとともに、参加者と技術動向の把握、定期的な情報交換を実施することで技術の進化に追従し、より良い技術交流の機会を提供し続けることが目標。

3. 1年目の目標

2018年12月よりスタートした新4K8K衛星放送を皮切りに、2020年東京オリンピックに向けた次世代の技術(HDMI2.1)を搭載した8K対応機器の接続検証を実施する。

アジア圏のデバイスメーカーに対しても積極的に情報を提供し、参加を促す。

技術的な最高峰の接続テストが実施出来るのは、日本プラグフェストであることを PR する。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)
実施計画策定のミーティングを実施

【事業No.2】日本プラグフェスト(春季)
HDMI 規格にて接続試験を実施
京都にて実施予定。

【事業No.3】日本プラグフェスト(秋季)
HDMI 規格にて接続試験を実施
都立産業技術研究センターにて開催予定

III. 支部活動計画

北海道支部

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

支部会員を増やす

セミナー開催

ビジネス交流委員会と一緒にを行う(予算は、ビジネス交流委員会で計上)

支部会の開催

2. 達成目標(完了条件)

支部会員を5社増やす。

支部会を3ヶ月に一回行う。

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】支部運営会議 支部会議

北海道支部の活性化及び会員増強の打合せ

HISホールディングス会議室にて、年度計画の打合せ及び懇親会を行う

【事業No.2】国内外視察調査

事業計画なし

【事業No.3】技術セミナー

JASAの活動及び組込技術の普及を目指す

道外より講師を招きJASAの活動をアピールする

【事業No.4】その他セミナー

事業計画なし

【事業No.5】研究会

事業計画なし

【事業No.6】交流会

支部会員を増やす

支部会員を増やす為にJASAの活動を紹介するとともに交流を図る。

【事業No.7】EAST/EWEST/Eトロボコン等 イベント参加

事業計画なし

東北支部

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

●支部会員増を図る

・会員増のために、会社訪問等による直接勧誘を行う

・支部事務局のある、岩手県・盛岡市等とビジネス交流委員会との共同セミナー開催を契機に東北支部会員増と支部活動の活性化を図る

●支部会員へのサービス提供

・支部会、セミナー開催により会員企業の事業発展に寄与する

- ・ET/IoT 展期間内での交流会・勉強会の開催(例:最新のデバイスマーカーの動向等を知る)

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

東北支部事業の推進

会員企業の増

東北支部事業の事業遂行状況確認

技術セミナーを同日開催

【事業No.2】 国内外視察調査

事業計画なし

【事業No.3】 技術セミナー

会員企業にとり最先端の技術動向の提供を行い事業発展に貢献

IoT に関しての著名な方を招いてのセミナー開催(ビジネス交流委員会との共催)

支部会議との同日開催

【事業No.4】 その他セミナー

事業計画なし

【事業No.5】 研究会

事業計画なし

【事業No.6】 交流会

事業計画なし

【事業No.7】 E T／E T W E S T／E T ロボコン等 イベント参加

事業計画なし

関東支部

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

- ①本部及び本部事業との情報連携による、組込みシステム技術の普及啓発
- ②Web会議、Webinarを活用した、支部内にとどまらず、全国レベルでの情報発信

2. 達成目標(完了条件)

JASA活動への”のべ参加率” 100%、共に新入会員 5 社を達成目標とする。

3. 1年目の目標

JASA活動への”のべ参加率” 100%、共に新入会員 5 社を達成目標とする。

4. 各事業計画

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

支部企画運営、および支部会議運営推進

支部企画運営 WG(原則月例)、および支部会議(例会)開催

【事業No.2】 国内外視察調査

新規ビジネス検討、会員間相互交流の創出

国内外企業、学術団体等を視察調査し、新規ビジネス検討/会員間相互交流を創出

【事業No.3】技術セミナー
事業計画なし

【事業No.4】その他セミナー
事業計画なし

【事業No.5】研究会
事業計画なし

【事業No.6】交流会
本部及び本部事業および支部との連携による、関東支部会員向け情報提供、
および会員間相互交流の創出

【事業No.7】E T / E T W E S T / E T ロボコン等 イベント参加
事業計画なし

中部支部

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

- ①本部及び本部事業との情報連携による、組込みシステム技術の普及啓発を行う。
- ②中部支部の特性を生かした事業を推進し、会員相互の親交の場を提供する。
- ③中部地域における官公庁及び関連機関との情報交流を行い、地域産業の活性化を推進する。

2. 達成目標(完了条件)

- | | |
|--------------------------|----------------------------------|
| 会員増強 会員数 25 社 | 中部経産局との協業事業実施 ワークショップの実施 |
| セミナーアイベント参加人数の増加 前年比+20% | 近隣大学との提携事業の実施 名古屋近隣大学とセミナー実施定例開催 |
| ET 名古屋の参加と協力 | ET 名古屋の定例開催確定 |

3. 1年目の目標

- | | |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 会員増強 中部支店のある会員企業に参加の働き掛け | 支部会議、例会の定期的な実施 コロナ禍においても |
| 国内外視察の実施 | 近隣大学との連携 技術セミナー、マネージメントセミナーの複数回実施 |
| 会員企業社員が参加するセミナーやボウリング大会の実施 | ET 名古屋の新しい形の模索 |

4. 各事業計画

【事業No.1】支部運営会議 支部会議
中部支部 2022年度事業計画、事業予算、遂行計画の確認と会員企業の経営者・幹部社員の情報交流
支部運営会議を5月と12月に実施し、事業案及び予算案の周知と会員の要望の確認
定例会を4回程度実施し、実施事業の内容決定や実績確認を行う

【事業No.2】国内外視察調査
国内外の情報産業の情報収集と地場大学・情報産業団体や企業との交流
海外視察は中堅幹部社員の海外経験の場としても提供
但し、コロナが収束すれば、の条件付き

- ・国内の他地域の情報産業事情と協業の可能性を調査するとともに地場情報産業団体や企業との交流をする。
- ・東南アジアを中心とする海外の情報産業の実情及び協業の可能性を調査するとともに交流などを介して中堅管理者の海外経験を積むこと
10月頃開催のタイトロニクス目標

【事業No.3】技術セミナー

- ・今後発展しそうな組込みシステム技術の普及・啓発を図る
- ・地元大学・企業から先進的な指導者を招聘して年2回セミナー・講演会を開催し組込みシステム技術の普及・啓発を図る
- ・セキュリティ関連のセミナーを継続的に実施

【事業No.4】その他セミナー

- 新時代を迎えるにあたり、今後のビジネスモデル、組織論や管理技術などを議論する場を提供する
- ・地元大学の経営学や管理技術の先生の協力を得て、上記目的を達成する講演を開催する

【事業No.5】研究会

- 会員各社幹部向け経営勉強会の実施
デジタルトランスフォーメーションが本格的に波及する中、中部地区の主産業である車分野もEV化や自動運転の推進など従来にはない方向を目指している。
会員各社の経営幹部を対象として時代に合ったビジネスモデルにどのように考えるか、後継者問題など各会社の経営課題をケーススタディを基に勉強する。

【事業No.6】交流会

- 会員企業の社員が相互に交流を図る機会を作る
地域の大学や企業訪問・交流
- ・多数の会員企業の社員が相互に交流・親睦をはかれる唯一の機会であるボウリング大会を開催する。
 - ・人材確保の一環として大学で会社説明などを支部として実施する。
 - ・近隣企業との協業を視野に交流の機会に参加する。

【事業No.7】ET/E TWEST/ETロボコン等 イベント参加

- ETやET名古屋のイベントに参加する
- ・アジャイル研究会の成果をETの技術本部のセミナーや技術本部成果発表会で発表し、研究会の活動の評価を受ける
 - ・ET名古屋の新しい開催方法を地元業界団体と協力して検討する
 - ・人材不足の解決方法としての協業の情報を得るために協業委員会の地方開催イベントや国際委員会のイベントに参加する

北陸支部

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

- ともに支部活動に関わる会員、連携先を増やし、地域産業への貢献度向上を目指した活動展開。
- 1) 地域における産学官連携活動の推進。
 - 2) 支部活動広報を兼ねた、人材育成・交流活動の推進。

2. 達成目標(完了条件)

- 1) 地域における産学官連携活動の推進。
e-messe KANAZAWA 出展
Matching Hub 出展

- 2) 本部および他地区と連携した技術力向上活動の推進
DX イノベーションチャレンジへの参加促進

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

- 【事業No.1】 支部運営会議 支部会議
事業計画なし

【事業No.2】 国内外視察調査

JASA 活動広報、施策調査ヒアリング
視察調査(ヒアリング)に加え、DX イノベーション・ET ロボコンの普及の
広報活動を兼ねる。

【事業No.3】 技術セミナー

組込み技術および周辺技術の普及
講師 2-3 名を招き、最新技術の紹介とともに、地元産学からの事例紹介を
実施し、ASA 活動の広報を兼ねる。

【事業No.4】 その他セミナー

JASA 活動広報、産学官連携推進
JAIST Matching HUB 2022/11 月 関係団体セミナー出展。

【事業No.5】 研究会

事業計画なし

【事業No.6】 交流会

事業計画なし

【事業No.7】 E T ／ E T W E S T ／ E T ロボコン等 イベント参加

JASA 活動広報、会員獲得活動、DX イノチャレ、ET ロボコン参加啓蒙活動
e-messe KANAZAWA(2022/5/13-14 金沢市)へのブース出展。
JASA 会員獲得に向けた、DX イノベーションチャレンジへの参加啓蒙として
参加費補助。

近畿支部

1. 活動概要(2022 年度の事業方針)

JASA ビジョン 2030 に則り、支部としてあるべき姿を求めていく
新型コロナウイルス感染症への対策は万全を期した上で可能な限りリアル開催を実施し会員
間の交流を大事にする。
より有効な場面ではオンラインやオンデマンドでの事業も展開し時代に合った支部活動を推
進していく。

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

- 【事業No.1】 支部運営会議 支部会議
支部事業計画に基づいた具体案の検討と本部・支部事業の連絡及び報告、
官公庁・関連団体との情報共有

4月には前年度活動報告及び決算報告、新年度の活動計画及び予算案を確認する
また官公庁との情報交換を行う。6月はセミナーの活動報告、ET-West の報告、
経営者向けのセミナーを行う。9月には近畿圏での本部活動報告と官公庁との
情報交換、12月は国内視察報告、他団体連携状況報告及び次年度事業検討、
3月は次年度予算と事業計画について確認し、近畿圏での本部活動報告会を行う

【事業No.2】国内外視察調査

国内外の組込みシステム技術の調査、現地の経済情勢を観察

今期、海外視察は取りやめとするが、国内視察として地方の組込みシステム技術と地方情勢に関する調査及び意見交換を行い、組込みシステム技術の普及啓発に寄与する。

【事業No.3】技術セミナー

技術担当社員の情報収集、技術啓発

春季と秋季の2回、組込みシステム技術に関する先端の技術についてセミナーを実施し、技術担当社員の技術啓発や人材育成を行う。講師の支払報酬を負担し、企業の枠を超えた研修の場を提供する。

【事業No.4】その他セミナー

総務・管理部門担当社員及び営業担当社員の人材育成

総務セミナーと営業セミナーのそれぞれについて春期と秋季の2回、各方面から講師を招聘し、総務・管理部門担当社員及び営業担当社員を対象とするセミナーを実施する。講師の支払報酬を負担し、組込みシステムに特化した会員企業では比較的貧弱な分野である技術以外の分野へのスキルアップ、情報収集に役立てる

【事業No.5】研究会

事業計画なし

【事業No.6】交流会

会員企業社員相互の親睦や他団体との交流を図る

4月には次世代の経営層を見据えた親睦会、7月には納涼会を実施する。

また12月には忘年会、1月には他団体と合同での賀詞交歓会を行う。

大阪万博を見据え官公庁及び関連団体との交流を密に情報収集し、また開催イベントに協賛して地域の活性化に寄与する。

【事業No.7】ET／ET WEST／ETロボコン等 イベント参加

支部会員のET出展を促進する

JASA ビジョン 2030 を見据え会員企業のビジネスマッチング推進として、7月に予定されている ET/IoT West への支部会員の出展を斡旋する。

九州支部

1. 活動概要(2022年度の事業方針)

これまでの九州支部事業実績と「JASA ビジョン 2030」および「JASA3か年計画」を踏襲し、以下を遂行していく。

- (1)九州地区の特性を活かした事業を推進し、会員企業への貢献と組込みシステム技術の普及啓発を行う。
- (2)九州地区における官公庁及び関連機関との情報交流を行い、地域産業の活性化へ寄与する

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】支部運営会議 支部会議

支部事業の遂行状況確認、および関連機関や団体との情報交流
半期ごとに年2回開催(5, 11月)。

支部会員を始め、九州支部が会員となっている福岡市 IoT コンソーシアムや福岡エレコン交流会などの関連機関および地場の大学等々から来賓を招いて実施。

【事業No.2】国内外視察調査

事業計画なし

【事業No.3】技術セミナー

支部と連携した情報発信と、JASA プrezentス向上、会員獲得

交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、九州支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。

モノづくりフェアへの参加も検討を進める。

【九州支部】

集客方法や予算軽減なども考慮して、「日刊工業新聞社」様主催の
「モノづくりフェア」内での開催を検討する。

【事業No.4】その他セミナー

事業計画なし

【事業No.5】研究会

事業計画なし

【事業No.6】交流会

学生に業界ならびに協会を PR し、会員企業との交流を図る。

九州圏の学生を中心に、業界・協会の認知を広げる機会を設ける。

その際、会員企業と学生の交流も図る。ET/IoT 展との相乗効果のある方法とする
JASA 活動紹介セミナー、九州支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。

終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA 会員獲得
を狙う。

モノづくりフェアへの参加も検討を進める。

【九州支部】

集客方法や予算軽減なども考慮して、ET ロボコン九州北・九州南地区大会内の
開催を検討する。

★ET ロボコンと交流祭典(セミナー)が並行するので双方のイベントをコントロー
する

★参加については、ET ロボコン参加者限定とならないように集客すること。

【事業No.7】ET / ET WEST / ET ロボコン等 イベント参加

★今後の ET 福岡について検討すること。

★そのための WG 設立なども視野に入れ検討すること。

⇒福岡中心で問題ないが、大分県や鹿児島県等の代表的な会員企業と一緒に
WG が良いのではないか?

⇒ET 展に限らず、九州発の WG も検討すべきではないか?

★ET/IoT 横浜にて、九州地区ブースとして九州会員企業・行政・大学との連携
での出展も検討してほしい。

IV 収支予算

2022年度予算

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人 組込みシステム技術協会
内訳書 全体

科 目	2021年度予算額	2021年度修正予算額	2021年度実績額 記載前	2022年度予算額	2022年度対実績差異	率	説 明
I 一般正味財産増減の部							
1 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益			515		-515	0%	
特定資産賞判員受取会員費			515		-515	0%	
正会員受取会員費	41,700,000	37,800,000	39,328,000	41,500,000	2,172,000	106%	
賛助会員受取会員費	38,200,000	34,500,000	35,828,000	38,000,000	2,172,000	106%	
事業収益	3,500,000	3,300,000	3,500,000	3,500,000	0	100%	
普及啓発事業収益	170,243,157	107,722,150	99,699,740	175,334,280	75,634,540	176%	
その他事業収益	110,946,327	55,218,300	58,306,300	123,250,000	64,943,700	211% ET, ETロボコン	
受取補助金等	59,296,830	52,503,830	41,393,440	52,084,280	10,690,840	126% その他事業	
受取国庫補助金	0	0	3,851,259	0	-3,851,259	0%	
雑収益	870,000	4,550,000	577,209	830,000	252,791	144%	
受取利息	270,000	270,000	377,182	270,000	-107,182	72% 定期預金	
雑収益	600,000	4,280,000	200,027	560,000	359,973	280% 印税	
経常収益計	212,813,157	150,072,130	143,456,723	217,664,280	74,207,557	152%	
(2) 経常費用							
職員報酬	113,857,410	95,207,585	73,979,150	119,513,934	45,534,784	162%	
役員報酬			0	0	0	0%	
給与手当			0	0	0	0%	
アルバイト料			0	627,000	627,000		
派遣料			0	0	0	0%	
退職給付費用			0	0	0	0%	
退職金共済掛金			0	0	0	0%	
福利厚生費			0	0	0	0%	
出向料			0	0	0	0%	
会議費	4,790,500	3,168,106	565,226	6,560,000	5,994,774	1161%	
旅費交通費	7,267,340	4,972,000	261,946	6,325,900	6,063,954	2415%	
通信運搬費	1,268,950	979,950	531,540	1,301,300	769,760	245%	
減価償却費			43,171	0	-43,171	0%	
消耗什器備品費			0	0	0	0%	
消耗品費	779,800	861,800	607,252	1,996,000	1,388,748	329%	
印刷製本費	2,868,750	2,613,630	3,022,006	3,274,750	252,744	108%	
賃借料			0	0	0	0%	
支払手数料	12,121,419	10,590,119	2,707,963	10,595,328	7,887,365	391%	
新聞図書費	90,540	89,220	671,546	579,330	-92,216	86%	
水道光熱費	156,000	145,000	0	206,000	206,000		
租税公課			0	0	0	0%	
会合費	8,135,000	5,152,000	9,000	13,221,900	13,212,900	146910%	
E D P 費	104,170	104,170	546,253	538,736	-7,517	99%	
業務委託費	69,468,241	65,202,590	64,781,214	69,723,990	4,942,776	108%	
広報費	6,092,000	992,000	143,000	4,060,000	3,917,000	283%	
諸会費	0	0	0	0	0	0%	
保険料	0	0	0	0	0	0%	
雑費	694,500	277,000	9,767	503,700	493,933	5157%	
経常費用計	212,813,157	188,293,478	163,592,106	214,074,560	50,482,444	131%	
評価損益調整前当期増減額							
評価損益等計							
当期経常増減額							
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計							
(2) 経常外費用							
経常外費用計							
当期経常外増減額							
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額							
指定正味財産期首残高							
指定正味財産期末残高							
III 正味財産期末残高							

2022年度予算（対2021年度実績）

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位：千円)

1. 事業推進本部	収入				支出				収支				説明				
	2021年度実正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度実正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率		
	4,100	3,884	190	5%	7,275	6,715	6,947	103%	-3,175	-2,831	-6,757	239%	-16	-1	-760	60445%	
事業推進本部																	
事業推進本部																	
広報委員会	100	33	100	303%	4,462	3,464	6,074	175%	-4,362	-3,431	-5,974	174%					
政策提案委員会	4,000	3,851		0%	2,797	3,250	23	1%	1,203	602	-23	-4%					
2. 交流推進本部	230		2,060		5,125	1,274	10,761	844%	-4,895	-1,274	-8,701	683%					
国際交流委員会																	
ビジネス交流委員会	150		550		2,289	286	6,264	218%	-2,139	-286	-5,714	1997%					
人財交流委員会	80		1,510		1,519	187	3,080	1648%	-1,439	-187	-1,570	840%					
3. 人材育成事業本部	69,825	63,537	67,394	106%	65,541	59,027	60,009	102%	4,284	4,510	7,385	164%					
ETEC事業推進委員会	18,245	13,709	15,308	112%	12,770	6,727	9,550	142%	5,474	6,982	5,758	82%					
教育研修コンテンツ事業推進委員会	19,630	17,789	6,936	39%	18,180	17,616	5,450	31%	1,450	173	1,486	857%					
ET技術者教育委員会	25,218	25,306	29,750	118%	25,218	25,308	29,750	118%			-2	0%					
JASAイノベーションチャレンジ実行委員会	6,732	6,732	15,400	229%	9,372	9,376	15,259	163%	-2,640	-2,644	141	-5%					
4. 技術本部	1,205	44	2,746	6240%	5,679	2,795	17,514	627%	-4,474	-2,751	-14,768	537%					
技術本部																	
安全性向上委員会	944	44	532	120%	1,006	298	1,022	343%	-633	-124	-2,215	1790%					
組込みシステムセキュリティ委員会	240		1,800		275	191	6,555	3425%	-62	-254	-400	193%					
IoT技術高度化委員会																	
ドローンWG																	
スマートライフWG																	
エネルギー・バースティングWG																	
OSS活用WG																	
応用技術調査委員会	21		48		147		220		-494	-103	-209	204%					
AI研究WG									-126		-172						
OpenELWG									-50		-50						
組込みIoTモデリングWG									-89	-67	-313	465%					
組込みDevOps・プラットフォームWG									-512	-616	-570	92%					
ハードウェア委員会	RISC-VWG				1,050	1,036	3,840	371%	-1,050	-1,036	-3,840	371%					
	デバイスWG				95	44	100	225%	-95	-44	-100	225%					
4. ET事業本部	30,000	33,000	93,500	283%	700	1,459	7,890	541%	29,300	31,541	85,610	271%					
ET展示会事業運営委員会	30,000	33,000	93,500	283%	700	1,459	7,890	541%	29,300	31,541	85,610	271%					
事業本部合計	105,360	100,465	165,890	165%	84,319	71,270	103,121	145%	21,041	29,194	62,768	215%					

5. 支部	収入				支出				取支				説明			
	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	
	3,512	130	5,750	4423%	7,994	1,356	10,632	784%	-4,482	-1,226	-4,882	398%				
北海道支部			51					64								
東北支部	175		153		487		589									
関東支部	820	130	1,150	885%	1,944	502	2,727	543%								
中部支部	904		1,056		1,817	106	2,033	1917%								
北陸支部					415	295	524	178%								
近畿支部	1,550		3,286		3,251	453	4,624	1021%								
九州支部	63		54		80		70									
									-17			-16				

6. 本部	収入				支出				取支				説明			
	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	
	41,200	42,862	46,025	107%	95,981	90,966	100,321	110%	-54,781	-48,104	-54,296	113%				
本部管理費・その他事業	39,610	41,322	43,570	105%	94,428	89,684	97,973	109%								
プラグフェス実行委員会	1,590	1,540	2,455	159%	1,553	1,282	2,349	183%								

7. 経常収支	収入				支出				取支				説明			
	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	
	150,072	143,457	217,664	152%	188,293	163,592	214,075	131%	-38,221	-20,135	3,590	-18%				
経常収支																

8. 経常外収支	収入				支出				取支				説明			
	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	
	97		0%	14,420	14,745	3,590	24%	-14,420	-14,648	-3,590	25%		<th></th> <th></th> <th></th>			
経常外経常収支																

9. 当期正味財産増減額	収入				支出				取支				説明			
	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算		実績	2022年度予算	率	
	150,072	143,554	217,664	152%	202,713	178,337	217,664	122%	-52,641	-34,783	0	0%				
当期正味財産増減額																

V 2022 年度理事会社への支払予定について

(1) 理事会社への支払予定

①ET ロボコン委託事業(予算承認)

株式会社アフレル	29,750,000 円
----------	--------------

②DX イノベーションチャレンジ委託事業(予算承認)

株式会社アフレル	15,259,200 円
----------	--------------

③支部事務局業務委託(予算承認)

東北支部 株式会社イーアールアイ	528,000 円
近畿支部 株式会社 Bee	1,848,000 円
九州支部 株式会社コア	462,000 円